



御報恩のための念仏—「世のなか 安穩なれ」の前提—

紅 椽 英 躰 (こうばい えいけん)

平成二十四年(二〇一二)一月十六日が宗祖親鸞聖人の七百五十回大遠忌だいおんきにあたり、前年の四月より大遠忌法要が始まります。

前回の七百回大遠忌法要の時は私は龍谷大学の一回生から二回生に成るときでありました。丁度父が体調不良であったため、父に代わって御門徒の方々と教区の団参に加わり、九州から、すし詰めすし詰めの団体夜行列車で参拝させて頂いたことが、感慨深く思い出されます。

この度の大遠忌のスローガンは「世のなか安穩あんのんなれ」であります。周知のようにこの言葉は『親鸞聖人しんらんしょうにん御消息』二五に、

往生ふじょうを不定におぼしめさんひとは、まづわが身の往生をおぼしめして、御念仏候そうろふべし。わが身の往生

一定いちじょうとおぼしめさんひとは、仏の御恩をおぼしめさんに、御報恩のために、御念仏ころにいれて申し

て、世のなか安穩あんのんなれ、仏法ひろまれとおぼしめすべしとぞ、おぼえ候ふ。(『注釈版聖典』七八四頁)とある中の御言葉であります。

今世紀最初の年にアメリカで同時多発テロ事件が発生し、それに続いてアフガン戦争、イラク戦争が勃発し、今尚ひんぼんそれに関連したテロ事件が頻繁に発生しております。それに加えて近接の北朝鮮では核兵器の製造や弾道ミサイルの発射実験等がなされるという不穏な状況にあります。

今こそ我々は「世のなか安穩なれ」といわれた親鸞聖人のおこころを頂き、人と人とが殺し合ったり、傷つけ合ったりすることのない本当に平和な安穩な社会の実現のために努力させて頂かねばなりません。

上に示しましたように「世のなか安穩なれ」とあるお言葉の前に「往生を不定におぼしめさんひとは、まづわが身の往生をおぼしめして、御念仏候ふべし。わが身の往生一定とおぼしめさんひとは、仏の御恩をおぼしめさんに、御報恩のために、御念仏ころにいれて申して」とあります。私はここが大変大事なところだと思います。

「往生を不定におぼしめさんひとは」とは、自分は浄土に生まれるかどうかははっきりとは分からない人、ということにやくぞんにやくもうであります。いわゆる「若存 若亡」(あるときは往生できるような気がするが、ある時は往生できない

と思う)の心の人であり、信心未決定みけつじょうの人であります。「まづわが身の往生をおぼしめして、御念仏候ふべし」と

は、まづ自分が往生することは間違いないと思身けつじょう(信心決定の身)になって御念仏をして下さい、ということでありましょう。「わが身の往生一定とおぼしめさんひとは、仏の御恩をおぼしめさんに、御報恩のために、御念仏ころにいれて申して」とは、すでに信心決定し自分が浄土に生まれることは間違いないと思っている人は、仏(阿弥陀仏)の御恩を思って御報恩のための念仏を申して、そして「世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ」と思い願いなさいと述べられているのであります。「世のなか安穩なれ」は、いうまでもなく親鸞聖人の願いであり、今の世にこそ、その実現のために我々はつとめねばならないのであります。その前提に信心決定の身となり、御報恩

のための御念仏しょうみょうほうおん(称名報恩)を申す身となれ、とあるお言葉を忘れてはならないと思います。

それから七百五十回大遠忌宗門長期振興計画に二つの目標が掲げられ、第一は「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要

の修行」、第二は「現代社会に^{こた}応える教学・伝道態勢の構築とみ教えに生きる『人』の育成」と定められています。とくに第二の目標については「往生を不定におぼしめさんひと」(信心未決定の人)ではなく、「わが身の往生一定とおぼしめさんひと」(信心決定の人)がその任に当たらねばならないと思います。『蓮如上人御一代記聞書』本九三に、

信もなくて、人に信をとられよとられよと申すは、われは物をもたずして人に物をとらすべきといふの心なり。人、承引^{しょういん}あるべからずと、前住^{ぜんじゅうしやうにん}上人(蓮如)申さると順誓^{じゆんせい}に仰せられ候ひき。「自信教人^{じしんきやうにん}信^{しん}」(礼讃^{らいさん}六七六)と候ふ時は、まづわが信心決定して、人にも教へて仏恩^{ぶつとん}になるとのことに候ふ。(『注釈版聖典』一二六一頁)

とありますように、わが身に信がなければ人に信をとらすことはできないことであり、「自信教人信」ということも、まずわが身が信心決定の人でなければならぬのであります。「現代社会に^{こた}応える教学・伝道態勢の構築」ということは実に久しく叫ばれてきていますが、「自信教人信」が忘れられてはなりません。信心決定者の救済体験^{きゆうさいたいけん}の事実^{じつじ}(現生^{げんしやう}十種^{じっしゆ}の益^{やく}の第九「常行大悲の益」^{じやうぎやうだいひ})からの情熱によってこそ教学・伝道の振興がなされていくものと思います。信心未決定者の「救済体験の事実なき教学・伝道」では、これからの社会の人々の心には響かないことでありましょう。この点の考慮がなされることにより、この度の大遠忌宗門長期振興計画は強力に推進されていくことと思います。

(司教)